

ご あ い さ つ



日本WHO協会会長
中野 種一郎

近年医学の進歩と公衆衛生活動の向上にはめざましいものがあり、それにともなって平均寿命が飛躍的な伸びを示していることはまことに喜ばしいことであります。しかしその反面では私たちの健康と暮らしを阻害する要因が日増しに増加しているといこともいなめない事実であります。

その最も顕著なあらわれが公害であると思います。日本WHO協会がこのほど「健康と公害」をテーマにして中学生作文コンクールを行ないましたが子供の目をとおしてみた公害問題の実態は今さらながら私ども、おとなの責任と適切な対策の必要性和痛感させてくれるようです。

暮らしを乱し発展をはばむ社会的な要因をとり除くことによって健康を増進し暮らしを高める社会的条件を保障していくことのできるのだと考えております。

健康の問題は単なる個人的な努力のみで解決できるものではなく社会的に健康の条件を整えることによって初めて完全な健康がもたらされるということであろうと思います。

健康こそは万人の有する基本的権利の一つでありまして人類の幸福と世界平和の基礎もまたここに存することは言を俟たないであります。

WHOは、毎年その憲章発効の日を記念して、この日を世界保健デーと定め、世界 131の加盟国が共通の主題のもとに健康の向上のための行事を行なうこととしていますが、本年は「糖尿病にもめげず充実した生活を」というスローガンがとりあげられました。

糖尿病は、近年わが国においても増加の傾向にあるとされており、とくに中年以上の人に多発することから社会的にも重要視されるようになってきております。最近の国民の疾病構造をみると、このような糖尿病を含めた成人の慢性疾患が大きな比重を占めており、これらの対策は国民保健上の重要課題といわなければなりません。健康と平和は自ら一步一步足もとから築くものであり、WHO憲章の一項「すべての人民の健康は、平和と安全を達成する基礎であり、個人と国家の完全な協力に依存する」と記し、あなたの健康わたしの健康世界の平和のため互に努力しましょう。

最後に国民の健康と福祉のため惜しみなき御協力を賜りますようお願い申し上げ第四巻発行のあいさつとします。

WHOと紋章



WHO（世界保健機関）とは、国連の仕事のうち保健衛生の分野を受け持つ専門機関で World Health Organization の頭文字をとって、WHO（ダブルユ・エイチ・オー）と呼んでいる。

その目的は全人類の健康を守るために、世界の国々が力をあわせ努力しようとするものである。

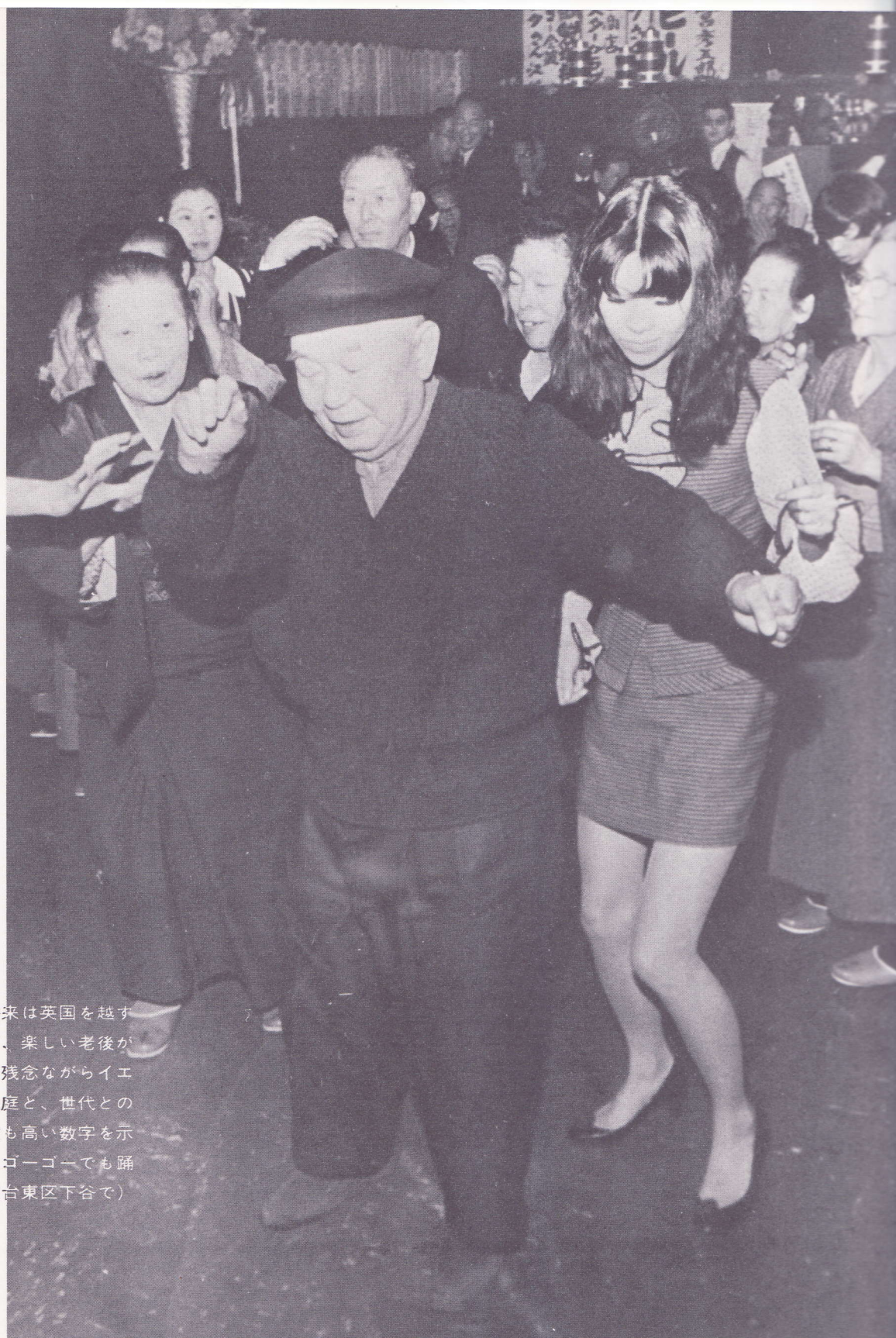
なおWHOの紋章は、国連紋章の中央に医術の神といわれるヘビとギリシャの医神イスキュレピアスの杖を配したものである。

老人に生きがい

幸福で健康な老後を

平均寿命がのびて日本の将来は英国を越す老人国になるそう。だけど、楽しい老後が約束されているかというと、残念ながらイエスとはいえない。社会と、家庭と、世代との断絶はきびしく、老人の自殺も高い数字を示している。「きょうばかりはゴーゴーでも踊ってウサを晴らすか」（東京台東区下谷で）

（朝日新聞社撮影）



労苦に 耐えた 風雪の 年輪

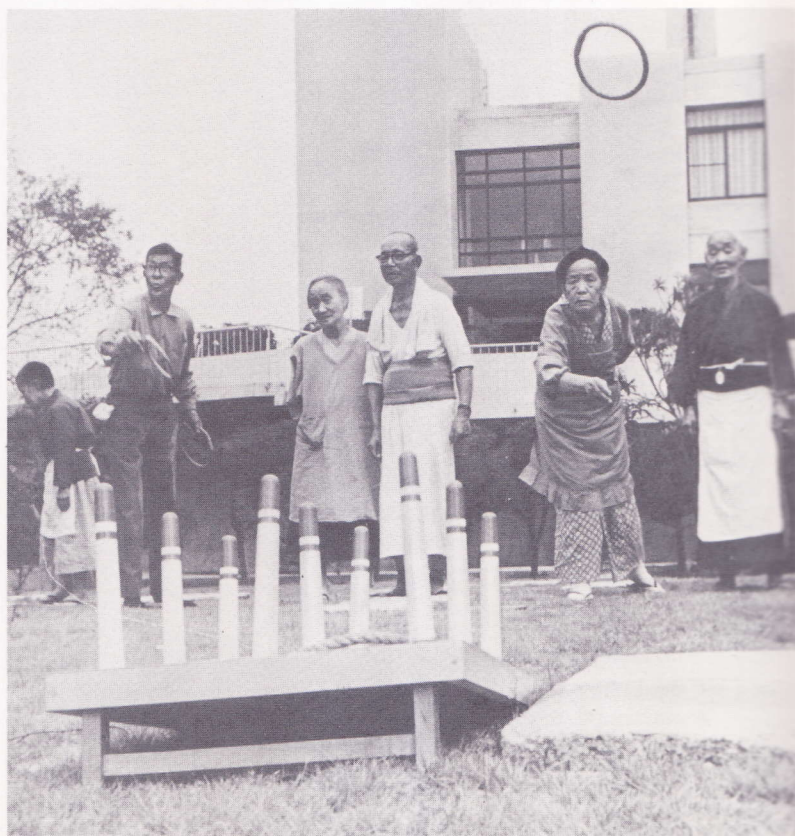
起床の時間、食事の時間、ハイ休息の時間
です、と施設の規律はキュウクツだ。ただいま
運動は輪投げの時間です

(羽曳野市四天王寺悲田院で)



嫁に手を引かれてフロ屋へ。昔からヨメ、
シウトメといえは犬猿の仲にも比類された。
核家族の多い昨今、珍らしい風景だ。

(大阪市東住吉区で)



安心できる老後を要求（高令者集会開く）

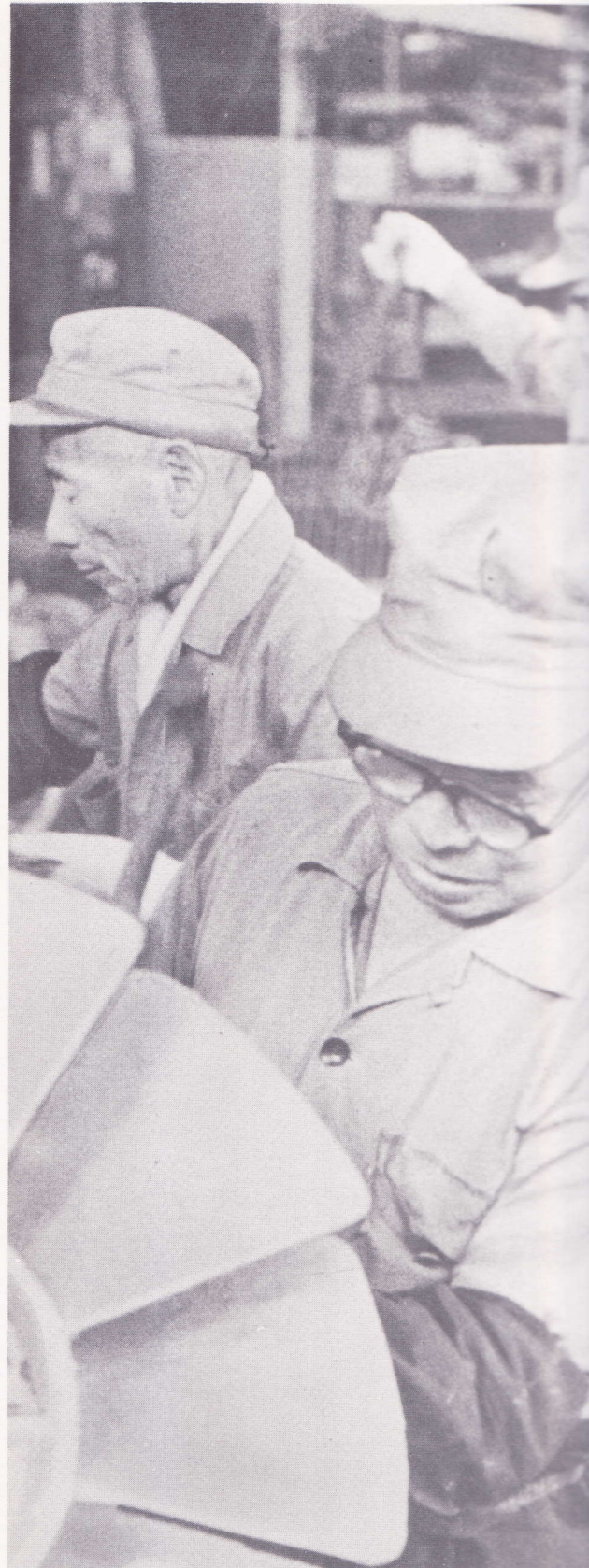


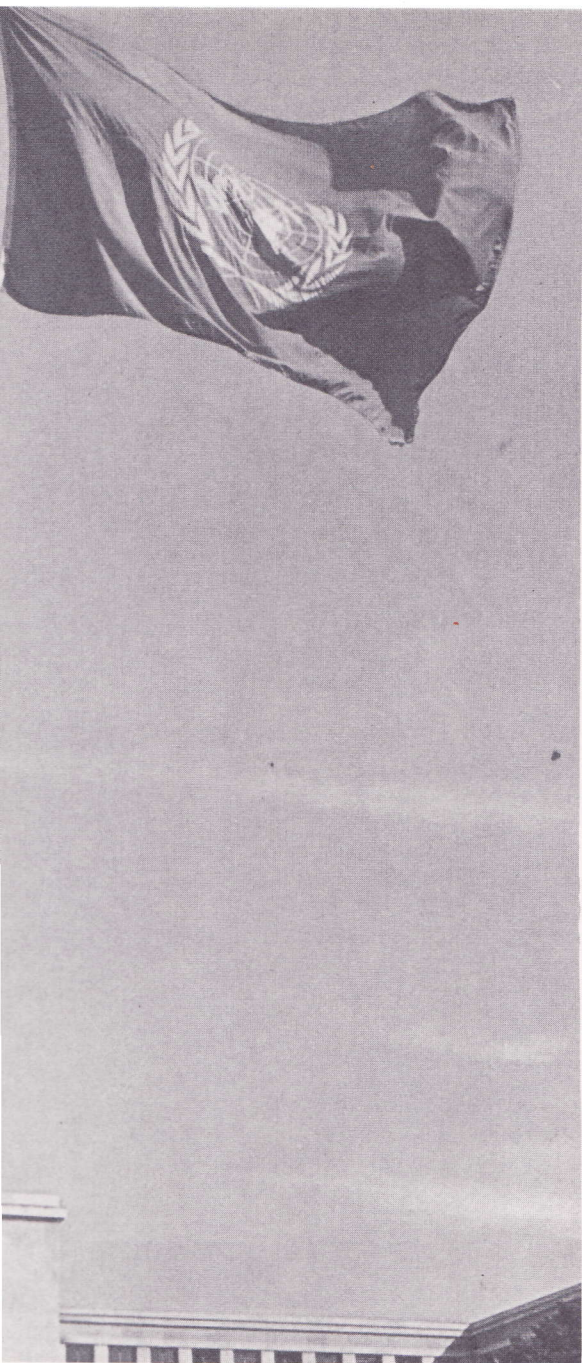
豊かな経験を 第二の人生へ



家に居たたまれず安住の地を求めて。公園
に同じ境遇の仲間たちとたむろする老人たち
（神戸市湊川公園）

ことし75歳。仕事は確か
で若い人の手本となってい
る（大阪市淀川区
N電機で）





人類の英知である国際連合にWHO（世界保健機関）が誕生して23年、「すべての人民の健康」にたゆまぬ前進を続けている

WHOはこんな仕事をしています

健康の維持 増進をはかる

人間は、どの国にいても、いつの時代になっても健康で幸せでなければならない。WHOでは、専門家委員会の会議を通じ絶えざる研究を行っている。④はウタント国連事務総長



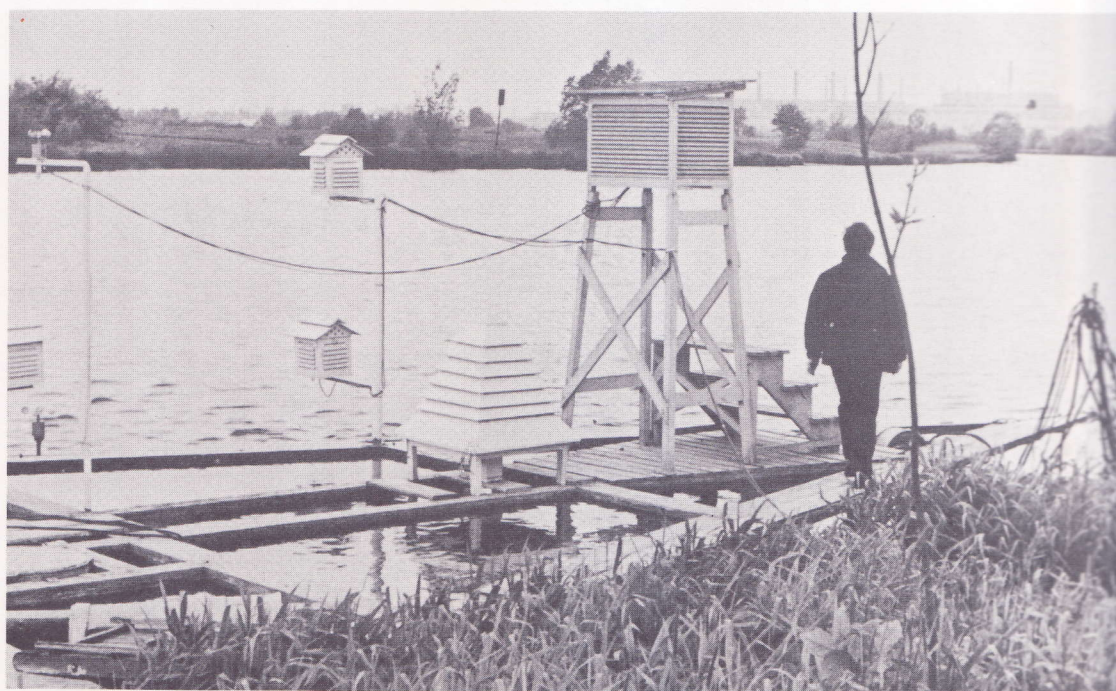


文化の進むにつれ、公害の発生、環境の不備など、人間の健康と福祉に大きな影響をもたらす。WHOは、これらの調査、測定に取り組んでいる

くらしの環境を
整える

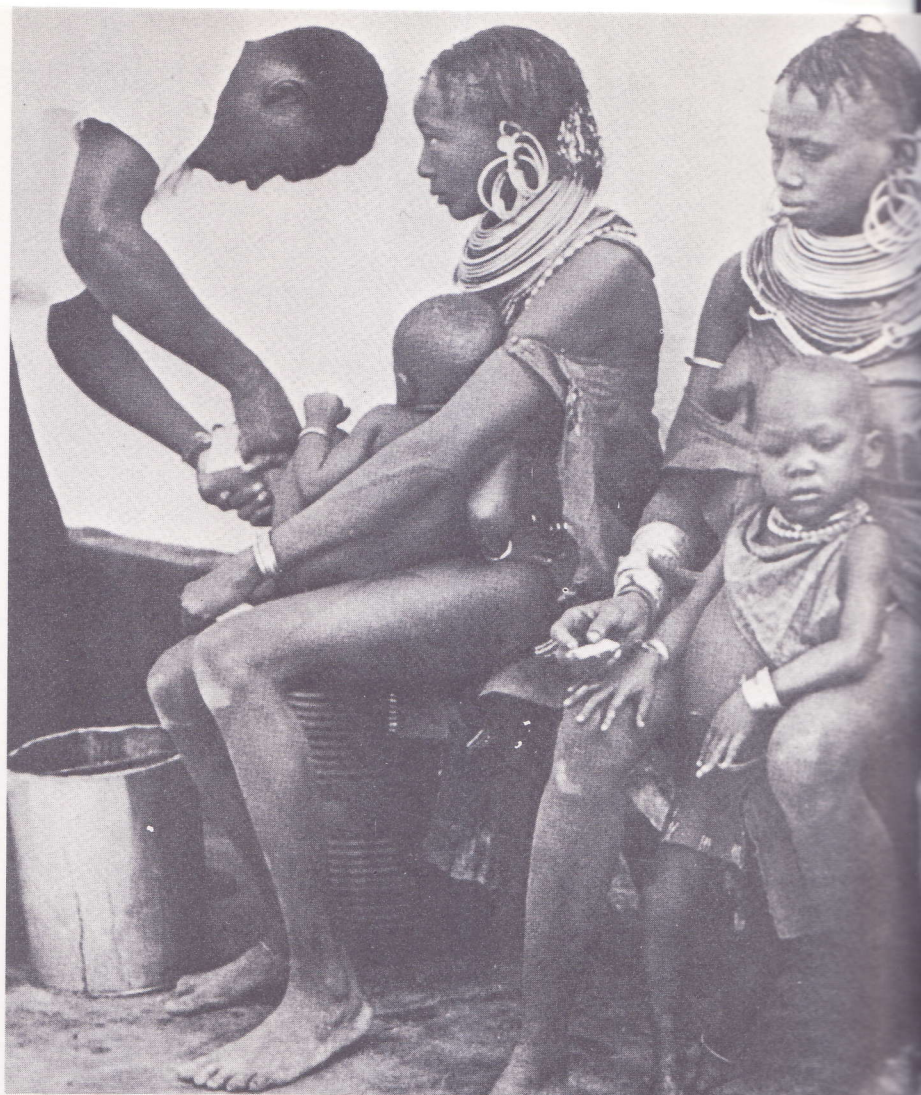
衛生状況を
調査する

WHO規則第1号として疫病、傷害および死因に関する分類を定め、各国からめられる統計資料により、その保健状況を正しく評価し、世界的な保健衛生計をたてている



現在の世界人口からすると 350万の医師が不足している。WHOは、保健衛生マンの研修を行なうとともに、奨学金制度によって各国の若い技術者に海外研究の便を与えている

保健衛生マンを
教育訓練する

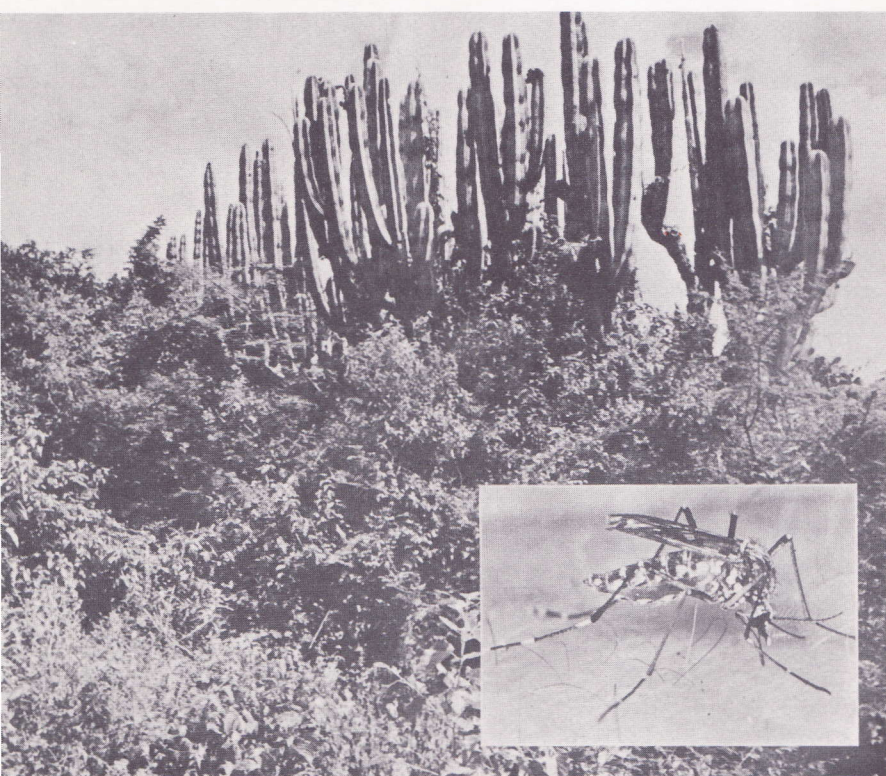


母と子の
健康を守る

母と子とは、特別の保護と援助を受ける権利を有すると世界人権宣言にうたわれているが、WHOでは、公衆衛生サービス部に母子衛生、看護などの部門を設け世界の母と子の健康養護につとめている

開発途上にある 国の技術援助

WHOの大きな仕事で特色のあるのは技術援助事業で、開発途上にある国々に対し、その国の要請に応じて各分野の専門家を派遣している



伝染病に国境はない。交通機関の発達でペスト、コレラ、痘そうなど恐ろしい伝染病が各国に伝播し易い。それ防ぐためWHOは国際衛生規則を定め、加盟国の検疫に関する規則や措置を調整、また予防接種を行なわせている。

伝染病を 予防する





1971年世界保健デーによせて

インシュリン発見50年

WHO事務局長

M・G・カンドウ

今世紀の初め頃においては、真性糖尿病はまだ大変恐ろしい病気でありました。幼くして糖尿病と診断されることは、早死を予告されるようなものでありました。壮年期になって糖尿病が発見されることは生活が一変し、余命いくばくもないことを意味していました。その後、今から50年前の1921年の末にフレデリック・グラント・バンティングというカナダの若い医師のたゆまない糖尿病研究がついに報われました。チャールズ・ハーバート・ベストという若い協力者と共同して、彼はインシュリンを単独にとり出し、1922年には患者の治療にそれを使用して成功しました。これは現代医学の最も偉大かつ劇的な発見であって、多くの糖尿病に悩む人の前途を完全に変えてしまいました。

バンティング氏とベスト氏のトロント研究所における発見は、一時は糖尿病にとって決定的な「治療」となるかのように思われました。ところがまもなく、インシュリンに反応を示さない糖尿病の症例もあることがわかってきたので、この病気の型、その組みやインシュリンそれ自体についても研究が進められました。

ここ2・30年の間に、この研究によって多くの貴重な発見がなされ、長時間効くインシュリンが作られるようになり、患者に注射する回数は一日一回で済むようになりました。また、糖尿病のための経口薬品も開発されました。食事や運動による自然で基礎的な療法によっても多くの効果が上りました。

一方、糖尿病患者は増加の傾向をみせ、糖尿病にかかっていることがみのがされている例がよくあるけれども、特に40才をすぎた肥満体のかたがたに多くみられます。このことが認識され、公衆衛生当局は、集団検診を実施したり、血液や尿の検査を行なって、この症例を発見することに努力するようになりました。

一度糖尿病と診断されると、適切な治療方法が指示されます。今日では、糖尿病患者でも正常な活動を営み、子供をもうけ、余暇を楽しむ、つまり存分に生活を楽しむことが可能となりました。

そのためには、適切な対策が講じられなければならないことはもちろんであります。医師から指示された治療法や食事療法に忠実に従うことが最も大切です。

糖尿病患者は自分から定期検診を受け

なければなりません。特に、インフルエンザのような病気にかかっている時や妊娠中のかたがたは検診を受けなければなりません。また、結婚しようとする人は、相手のどちらかが糖尿病の家系である場合には遺伝に関する助言を求めることが賢明です。糖尿病はまだまだ油断のない病気ですから、指示された治療法を軽視すると昏睡、失明、腎臓や神経疾患、皮膚感染、特に心臓や血管の退行性の変化という危険な合併症を併発することにもなります。

この病気についての知識を持てば持つほどこの病気に向き立ち向うことができます。従って、あらゆる機会における広報宣伝や教育活動は早期発見と適切な治療を促進するものであります。

「公衆が事情に通じた意見を持ち且つ積極的に協力することは、人々の健康を向上する上にも最重要である」

このWHOの憲章の前文の文句は、世界の至るところ公衆衛生上重要な意味をもつ病気である糖尿病に関して特に適切なことばであります。

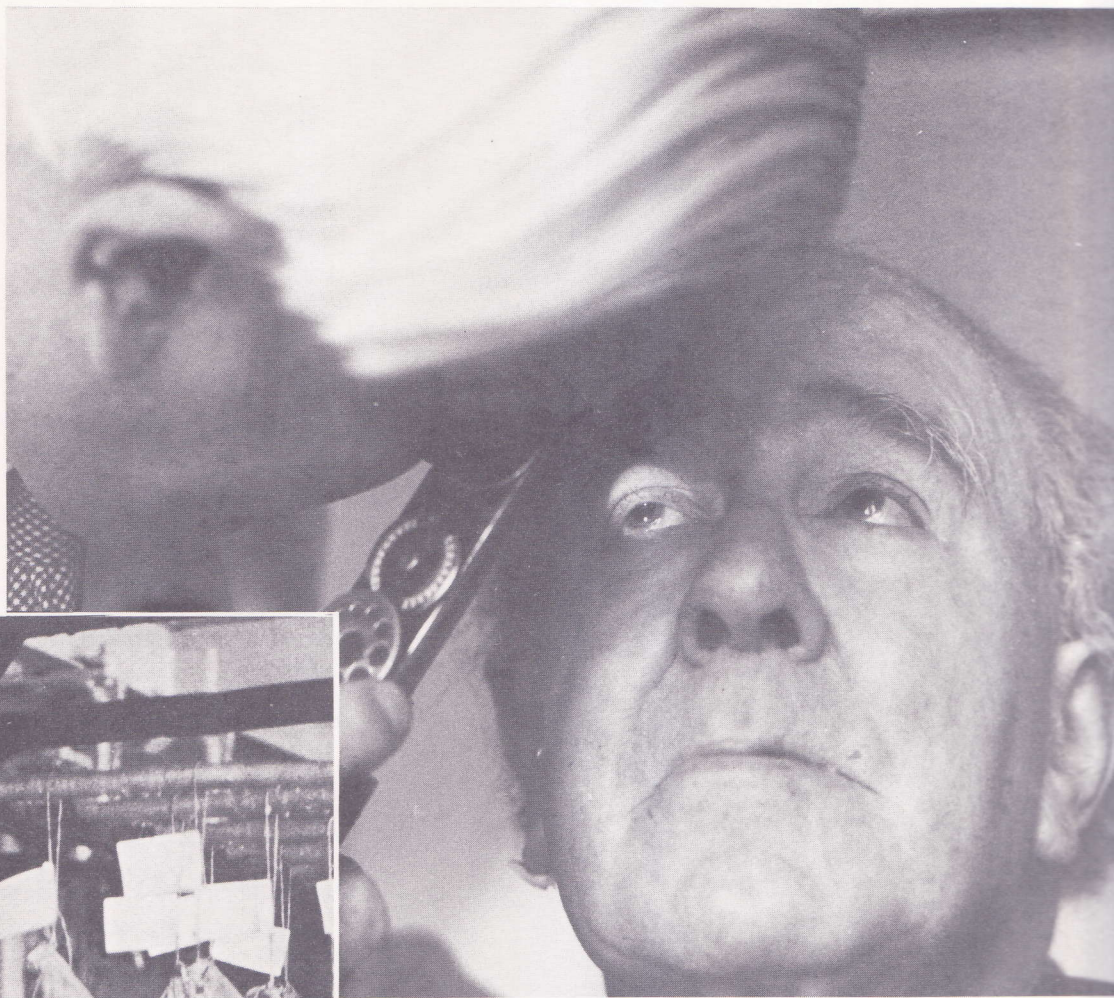
71年度
共通標語

糖尿病にうちかって、より充実した生活をおくするために、この「世界保健デー」を契機にして、糖尿病に対する正しい知識が国民に普及され、早期発見と適切な健康管理が自分自身の問題として把握されることが望まれる。



年、インシュリンを発見した当時のバンキング（右）とベス。⑦はカナダ・トロントにある誕生場所。実験室

由断の ならない 病氣



糖尿病の合併症として視力
る。他に脳卒中、心臓・腎臓
患が知られ、放置すれば死亡

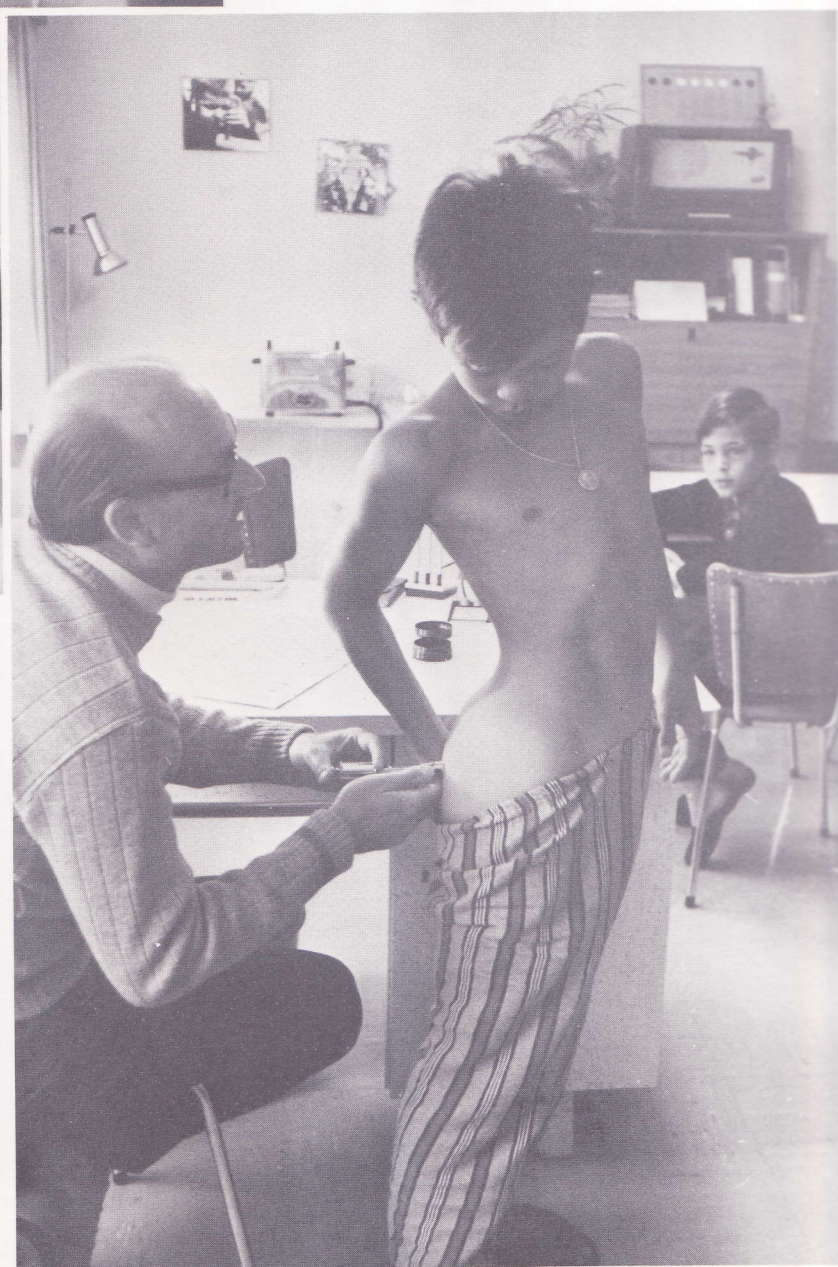


糖尿病にかかると栄養のバランスが
とれないので肥満症になりやすい。食
事療法と運動療法が必要だ



毎朝、洗面室で尿糖の検査をする。試験紙の色の変化で糖の程度を知る

インシュリン注射は糖尿病の最も効果のある治療法である。お目覚めにチクリ



運動量は医者 の 指示 が必要 だ。
幼年 糖尿病 患者 の 集団 療養 所 で ツナ引き

戦

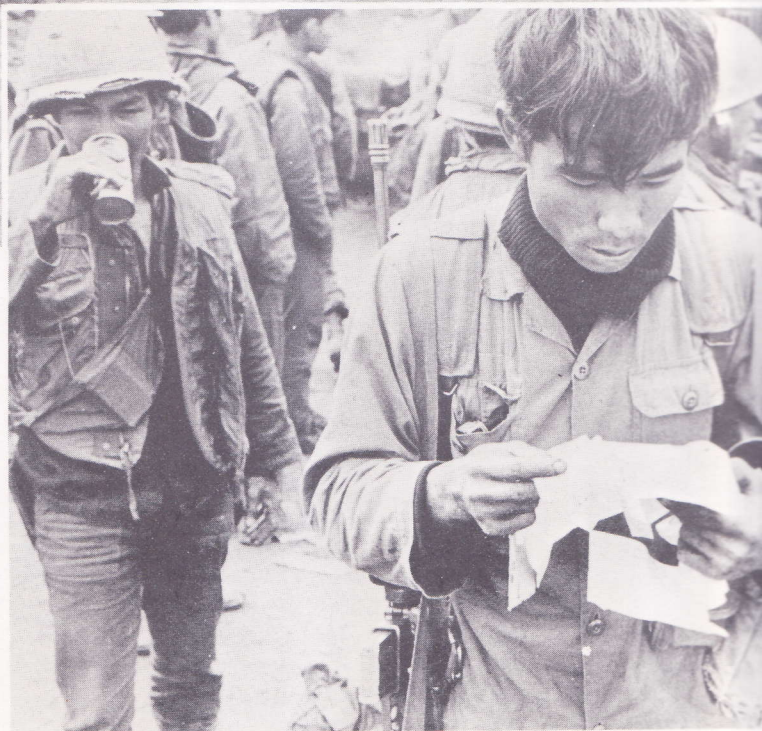
禍

(朝日新聞社撮影)

平和こそ人類の願い

現代の戦争は兵士と兵士との戦いだけではない。
ジェノサイドとかいわれ、近代兵器を駆使しての
皆殺し戦争だ。これは枯れ葉作戦と称し、クスリ
をばらまいて木を枯らす

やっと生きのびて帰った基地に家族からの
手紙。だが、あすはどうなるやら……





シリアの戦車を見物するイスラエル市民



ラオス戦線でヘリコプターに乗り、ア
ベイスする米軍事顧問



ヨルダン国境に近いベイシャン地区のトーチ
子どもたちは無心に遊んでいる

公害

(朝日新聞社撮影)

空を海を 平和な生活



訓練室のベッドでうつろな表情。
だれが私をこんな体に…」(胎児性水俣病児)



この海がニクいノ 母の体内ですでに有機
水銀におかされ、生まれながらの水俣病に…
不確かな眸で海を見る子どもたち

吐血している列島の上に
音もない死民たちの曼陀羅図絵
石牟礼道子さん(詩人)の詠んだ、この地
上の姿である。海も、空も、陸も、はきださ
れる毒気で、人間は絶滅へ向かってあゆむ。
無脳児のみやこの露路にゆき暮れて
わたしは生き埋めの地面に頼すりよせ
祖の国の名をちいさな声で呼んでみる
にんげんよ にんげんよ と

怨念をただ胸に、座して死を待つのが最良
の道だろうか。自然の許容量の限界を説き、
すでに手遅れをいう科学者がある。

だが、20世紀の文明を発展させた人類に、
この公害を克服できぬはずはない、と人間の
英知を信じる人も多い。

大事なことは、みんなが手をつなぐという
ことだ。人類を守れノをスローガンに公害に
宣戦布告せねばならない。ラルフ・ネーダー

せ！



富山湾の海底のドロを調査する通産・厚生
両省の特別調査班。(Ⓕ)は魚のイタイタイ病
——くの字に曲った魚(岡山市西大寺で)



犠牲者の遺影を胸に…
歩道に座り込む家族たち
(東京丸ノ内東京ビル前
で)